

レファレンス コーナー 中国の社会保障改 革

伊藤えりか

かつて計画経済体制の下に発展してきた中国では、人の一生は国家によって保障されていた。しかし、改革開放政策で急速に市場経済化が進み、短期間に経済成長を遂げた結果、社会構造変動とも言つべき変化が生じた。雇用、年金、医療費など、それまで国家や企業が保障していた部分を、社会制度で保障しなければならなくなったのである。

一九九〇年代から行われている社会保障改革の柱は年金、失業保険、医療保険の三つである。失業保険制度が必要になった背景には、国有企業改革による余剰人員のリストアや下崗と呼ばれる一時帰休者の大量発生、国有企業の休業や倒産、農村部の余剰労働力などの社会問題がある。このような社会改革の結果必要となった中国の新しい社会保障制度とその背景にある社会事情、新制度の問題点を理解するために、中国研究所編『中国は大丈夫か?——社会保障制度のゆくえ——』（創土社 二〇〇一年）、王文亮『二二世紀に向けての中国の社会保障』（日本橋報社

二〇〇一年）をあげたい。先にあげた三つの柱のほか、最低生活保障、公的介護、労働災害保険、女性の出産・育児保障の問題も取り上げている。大塚正修・日本経済研究センター編『中国社会保障改革の衝撃』（勁草書房 二〇〇二年）は、日本と中国の専門家による共同研究成果で、問題点を簡潔にまとめている上、馴染みのない読者向けのコラムがわかり易い。田多英範編『現代中国の社会保障制度』（流通経済大学出版社 二〇〇四年）では、社会主義経済時代の社会保障制度と現在の同制度に関わる中国の中央・地方財政の関係が言及されている。張紀澤による『現代中国社会保障論』（創成社 二〇〇一年）では都市部を中心に社会保障を包括的に捉え、多数の項目を取り上げた。社会保障政策と制度を一九四九年の中華人民共和国成立以前に遡って解説し、現状を詳細に記述している。

年金制度にも国有企業改革の影響が及んでいる。改革開放以前、中国の国営企業の退職者年金の財源は個人が所属していた個々の企業が負担していた。国有企業改革とともに旧制度そのものが立ち行かなくなり、移行期間を経て一九九七年に養老保険制度が定められた。鍾仁耀『中国の公的年金改革』（法律文化社 二〇〇五年）、『中国の年金制度改革』（自治体国際化協会北京事務所 二〇〇〇年）、劉曉梅著『中国の改革開放と社会保障』（汐文社 二〇〇

二年）は、中国の年金制度沿革、社会背景とその問題点を解説している。日本の研究機関も社会保障制度改革に関心を寄せている。中国の大学や研究機関と共同研究を行い、中国でヒヤリングやアンケート調査を行っている。『中国国有企業改革のゆくえ——労働・社会保障システムの変容と企業組織——』（日本労働研究機構 二〇〇一年）は、社会保障制度改革を国営企業改革に端を発した社会問題の受け皿として考察している。『中国の社会保障制度の課題と展望』（日本経済研究センター 二〇〇二年）は、日本経済研究センターが中国社会科学院、中国労働社会保障部社会保険研究所と行った共同研究の成果である。李秀英著『中国における社会福祉政策の展開状況に関する研究』（アジア女性交流・研究フォーラム 一九九九年）はアジア女性交流・研究フォーラムと中国の三つの大学との共同研究報告書である。

三つの柱の一つ、医療保険制度の改革は段階的に実施されている。しかし、都市部と農村部で適用される制度が異なり、都市部でも行政単位によって新制度への移行時期が異なるため、個々の資料の記述からその全体像を把握することは難しい。同じ中国でも、都市部と農村部では抱える問題も必要な改革も異なる。王文亮『九億農民の福祉——現代中国の差別と貧困——』（中国書店 二〇〇四年）は、総人口の約三分の

二が居住する農村部の社会保障制度の実情とその問題点に焦点を当て、さらに高齢者の扶養問題を取り上げている。

中国では近年人口の高齢化が急速に進んだ。これは人口抑制を目的に一人っ子政策がとられた結果で、総人口二億三千万のうち、六〇歳以上の高齢者が一億人を超えている。核家族化も進み、高齢者の扶養や介護が新たな社会問題となっている。都市部では「社区」（地域社会の意）という新制度が導入された。王文亮著『中国の高齢者社会保障——制度と文化の行方——』（白帝社 二〇〇一年）は、養老の精神を大切にしてきた中国社会と、そこに起きた急速な変化を、高齢者に関わる社会保障問題を軸に論じている。

一九九八年の行政機構改革で、労働・社会保障部が設置され、関連制度の修正と拡充に取組んでいる。一九九九年から中国語年鑑『中国労働和社会保障年鑑』（中国労働社会保障出版社）を出版し、一年間の制度の変化や新たな問題を詳述している。日本語資料では中国研究所編『中国年鑑』（創土社）の社会保障と医療の項目が年毎の変化を報じている。今の時点ではどの資料でも改革のさなかにある新制度の一つ一つが、急速な変化に合わせて修正・安定し、十分機能するまでにはかなりの時間がかかると考えられている。

（いとう えりか／アジア経済研究所図書館）